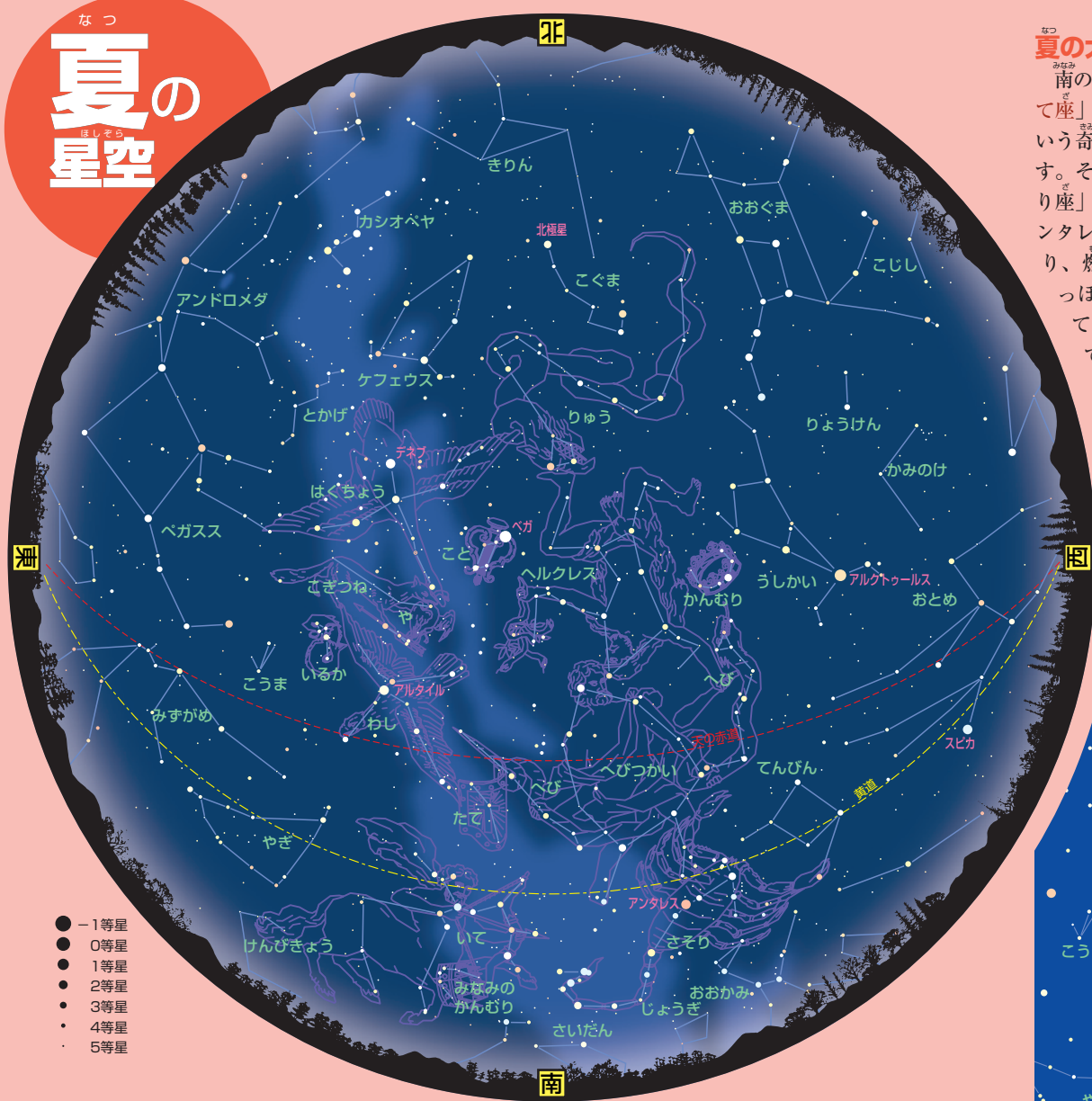


なつ
夏の
ほしそら
星空



- -1等星
- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- 5等星

この星空が見える日時

4月中旬	午前 4時
5月中旬	午前 2時
6月中旬	午前 0時
7月中旬	午後 10時
8月中旬	午後 8時

夏は家族や友達と楽しく星を眺めるのにぴったりの季節です。街明かりの少ない所まで行けば、南の地平線から頭の真上を通して北の空まで流れている天の川を見ることができるでしょう。双眼鏡や望遠鏡で眺めてみると、淡い雲のように見える天の川が、実際はたくさんの暗い星の集まりであることがわかります。

夏の**大三角**から南に流れる**天の川**

南の地平線近く、天の川の一番濃い部分に「いて座」があります。上半身が人、下半身が馬という奇妙な人物が弓を引き絞った姿をしています。そして、その矢はすぐ右に位置する「さそり座」の赤い星アンタレスを狙っています。アンタレスはちょうどサソリの心臓のところにあり、燃えるように輝いています。サソリのしっぽの部分は「J」の字のように先が曲がっており、日本ではそれを釣りばりに見立てて「うおつりばし」「たいつりばし」の名を付けている地方もありました。

いて座やさそり座のあたりから天の川を頭の真上の方へたどっていくと、天の川をはさんで両岸で輝く2つの星が見つかります。地平線に近い方が「わし座」のアルタイル、ほとんど真上にあるのが「こと座」のベガで、日本では、彦星・織姫星として有名な七夕の星たちです。実際のアルタイルと



夏の**大三角**



ベガの間には、光の速さで飛んでも17年かかるほどの距離があり、伝説のとおり毎年七夕の日にデートすることは難しそうです。

ベガからさらにさかのぼると、天の川の中に白く輝く星デネブを見つけることができます。デネブは「はくちょう座」のちょうどしっぽのところにあり、その名も「尾」を意味しています。デネブを中心に、ちょうど大きな十字架を描くように星が並び、白鳥が天の川の水面近くをすべるように飛んでいるようすを想像することができます。